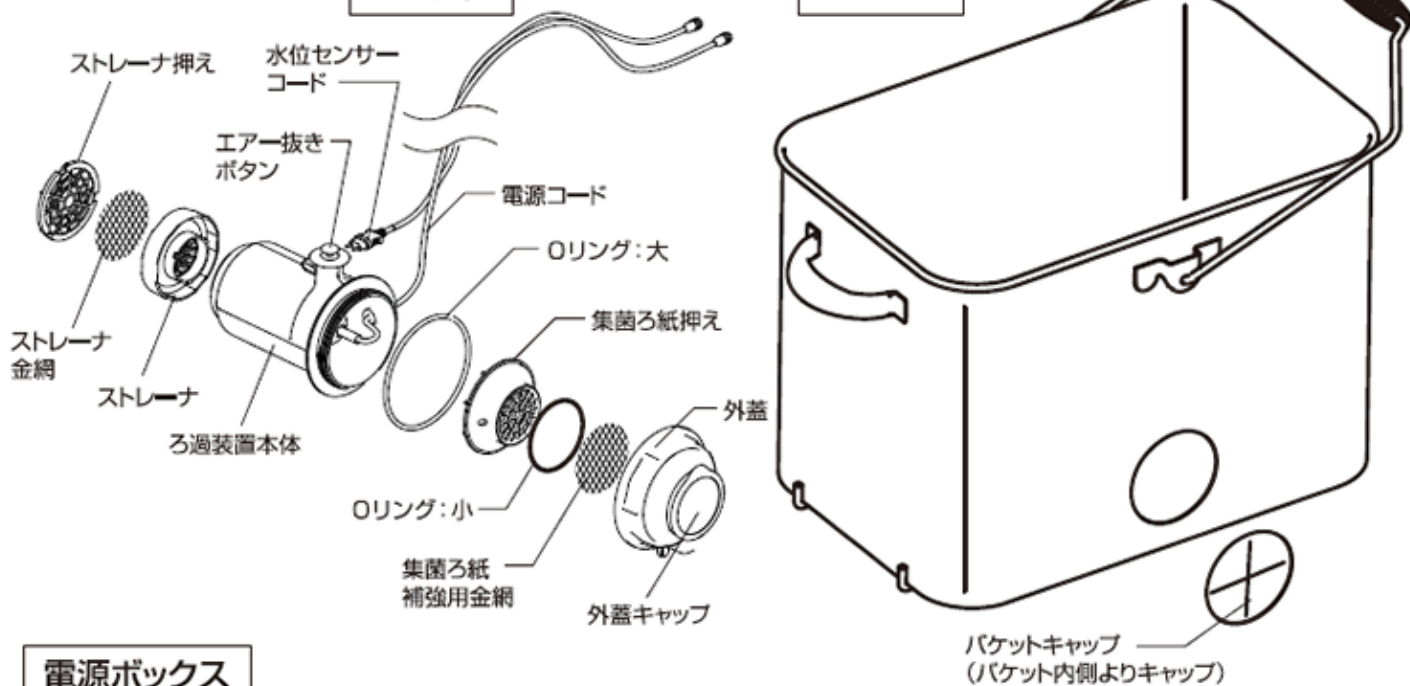


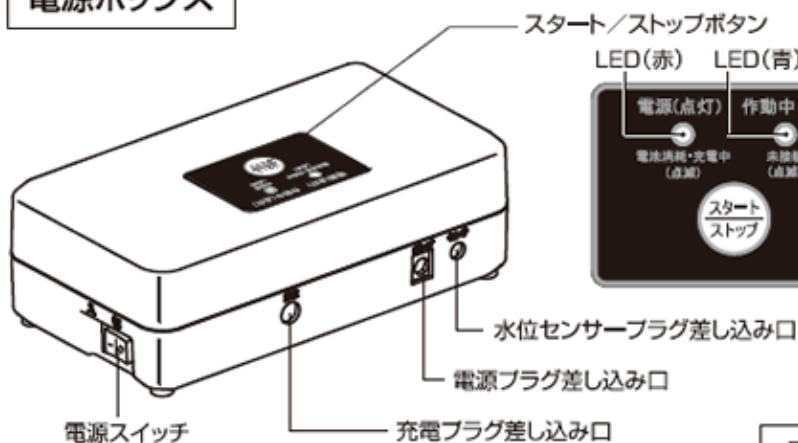
濃縮装置

ろ過装置

バケツ



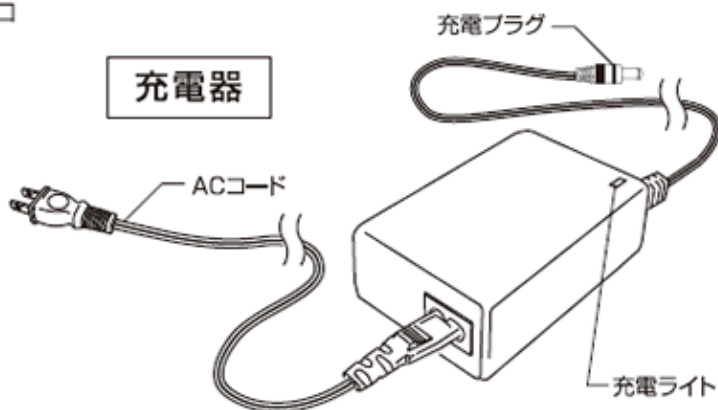
電源ボックス



| システム状態 | LED(赤) | LED(青) |
|-----------------|--------|--------|
| 電源ボックス電源スイッチ「入」 | 点灯 | — |
| 正常使用状態 | 点灯 | 点灯 |
| ろ過装置未接続 | 点灯 | 点滅 |
| 電池消耗 | 点滅 | — |
| 回路異常 | 点滅 | 点滅 |

※赤、または青のランプが点滅した場合は、電源スイッチを入れ直してください。充電中の点滅は、5分後に消えます。

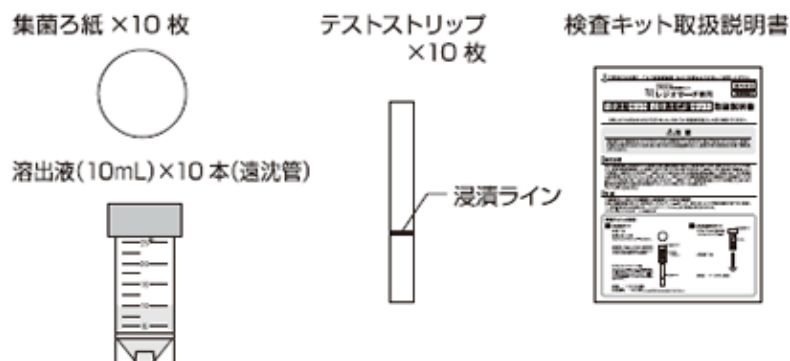
充電器



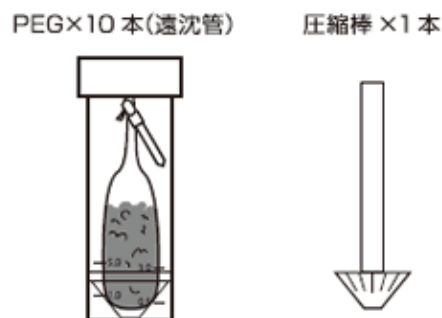
取扱説明書



1段濃縮キット



2段濃縮検査キット

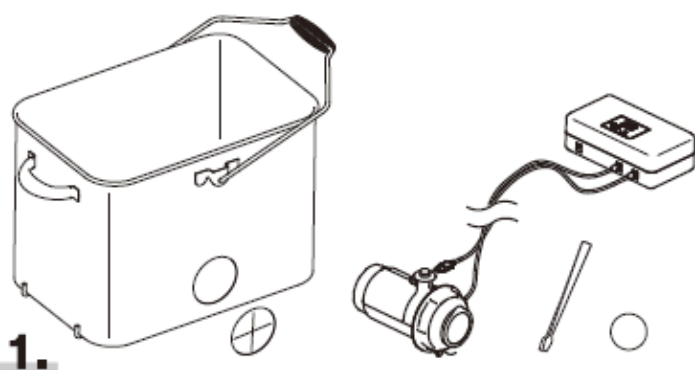


操作手順

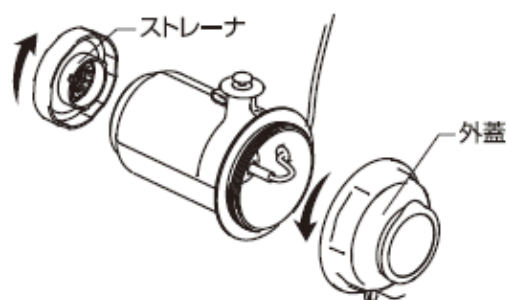
手順に従い操作してください



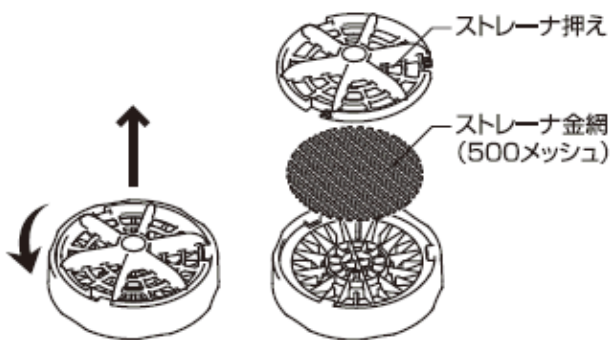
1. 準備



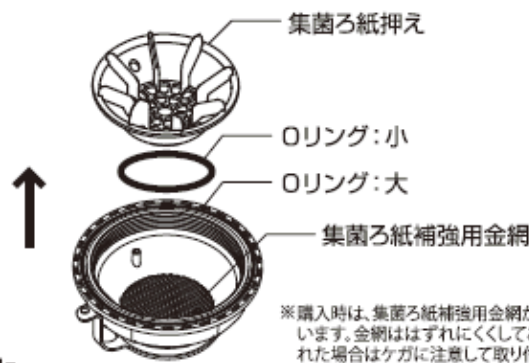
1. 各器材(機材)を用意します。
 充電の確認は、「充電の仕方」P5を参照ください。
 ※ろ過装置は、十分に充電してあるものをご使用ください。
 充電が不十分の場合、ろ過装置の力が弱くなり、ろ過時間が長くなる恐れがあります。



2. ろ過装置のストレーナと外蓋を反時計回りにまわしては
 ずします。



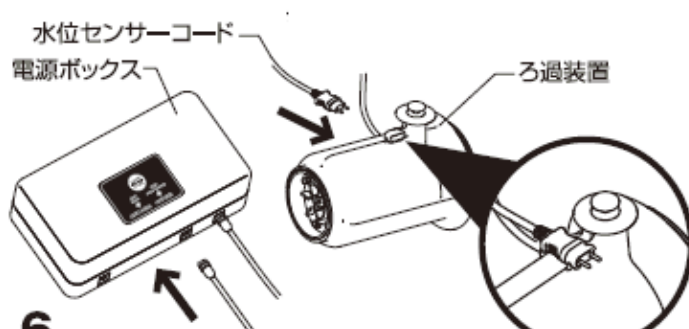
3. ストレーナ押えを反時計回りにまわしては
 ずし、ストレーナ金網があることを確認してください。
 確認後、ストレーナ押えを時計回りに「カチッ」と止まる
 箇所までまわして取り付けてください。
 ※ストレーナ金網が折れていないことを確認してください。
 ※購入時は、ストレーナ金網が取り付けられています。



4. 外蓋から集菌ろ紙押えをはずします。集菌ろ紙補強用金網
 とOリング:大小(ゴムの輪)が、確実に取り付けられて
 いることを確認します。
 ※はみ出したり、はずれていないこと



5. 外蓋の金網とOリング(大小)の上の場合、必ずして集菌ろ紙をはずし



6. 水位センサーコードを電源ボックスの水位センサーコードの差込口に接続し、電源

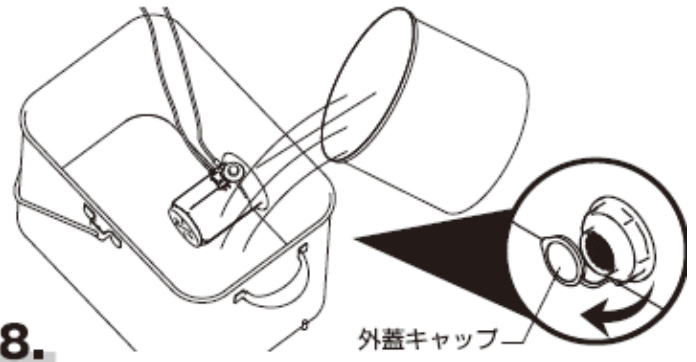
外蓋の金網とシリコンパッキンの上にヒンセットで集菌ろ紙をセットし、集菌ろ紙押えの穴を外蓋のガイドピンに合わせて取り付けます。
 ※集菌ろ紙をセットする時は、周りにすき間がでたり折れ曲がらないよう、注意してください。また、やぶらないよう注意してください。正しく検査できなくなります。

水位センサーをろ過装置の差し込み口にしっかりと取り付け、電源ボックスに水位センサーコードと電源コードを取り付けます。
 ※電源ボックスは濡れないよう高い所などに配置してください。
 ※水位センサーを電源ボックスに差し込まないと、電源スイッチは入りません。
 ※水位センサーをろ過装置に正しく取り付けないと、作動はしますがセンサーが正しく感知せず、ろ過装置が空運転となり故障の原因となります。

7.



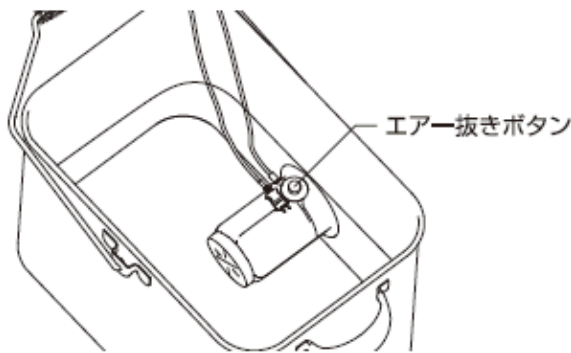
8.



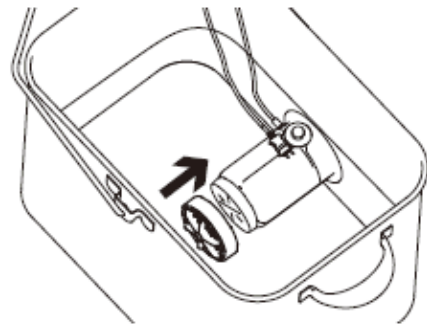
ポケットキャップをはずし、エア抜きボタンを真上にしてポケットの穴にろ過装置を固定し、ポケットの外側から外蓋を回して取り付けます。
 ※ポケットキャップをなくさないようにしてください。
 ※外蓋の取り付け方によっては、若干検水が漏れることがあります。

ポケットに検水をろ過装置がかくれるまで入れてください。空気抜きをするために、ろ過装置の外蓋キャップを外します。

9.



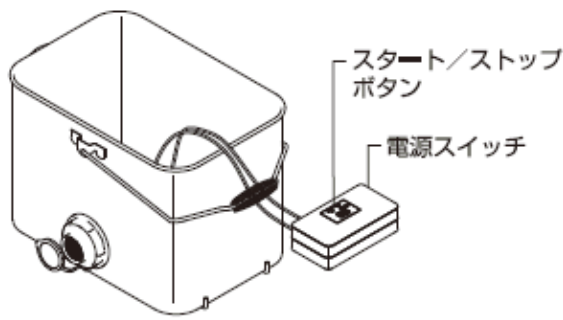
10.



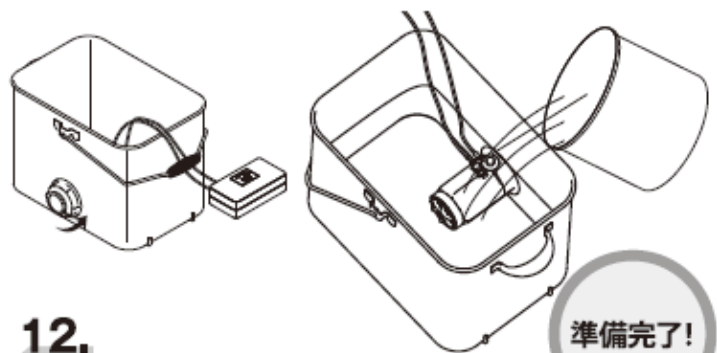
電源スイッチを入れ、エア抜きボタンを押しながらスタート/ストップボタンを押します。
 ※ろ過装置内に空気が入ったままでは、検査ができません。また、空回りして故障の原因となります。

ストレーナをろ過装置本体に取り付けます。矢印方向へストレーナを本体にはめ、時計回りに「カチッ」と止まる箇所まで回してください。
 ※ストレーナ部に空気がたまっていない状態で取り付けてください。

11.



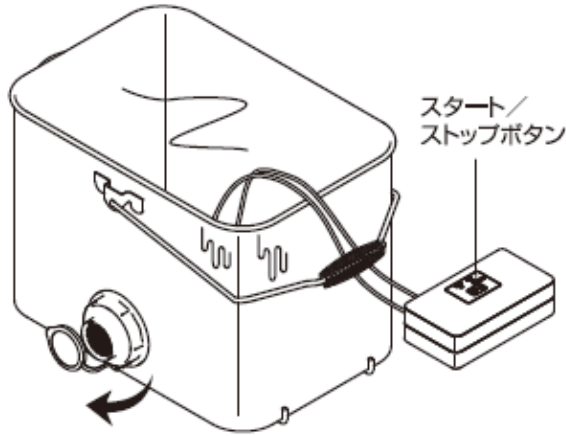
12.



空気が抜けたら、スタート/ストップボタンをもう一度押します。モーターの回転が止まったことを確認してください。

外蓋キャップをしめます。ポケットに検水があふれるまで入れます。
 ※ろ過装置内に空気が入らないよう、検水を静かに入れてください。
 ※外蓋キャップは完全防水ではありませんので、検水を継ぎ足す際に若干漏れることがあります。

2.ろ過濃縮(1段濃縮)

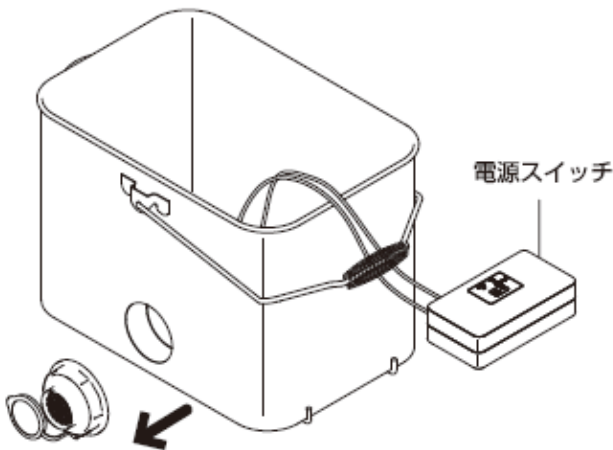


1.

外蓋キャップを外し、スタート/ストップボタンを押します。ろ過が始まります。

- ※検水中、空気がストレーナとろ過装置本体の間に溜まっている場合は、ストレーナをはずし、空気を抜いてください。
- ※ストレーナに検水中のゴミが溜まっている場合は、ストレーナをはずし、ゴミを取り除いてください

- ◎通常、検水を20Lろ過した後に、水位センサーが作動して自動的にろ過装置が停止しますが、検水の水質によっては途中で集菌ろ紙が目詰まりして、検水がろ過できなくなることがあります。そのような場合、おおよそのろ過液量を目で確認の上、記録して、集菌操作を終了してください。
- ◎集菌ろ紙の目詰まりが著しい場合、他の方法で再試験してください。
- ◎水位センサーが作動しない場合、スタート/ストップボタンを押して、停止してください。

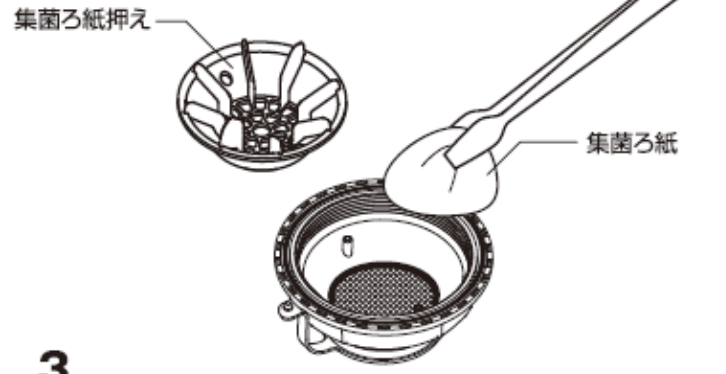


2.

20Lのろ過が終わると自動でろ過装置が止まります。電源スイッチを切り、外蓋を外します。

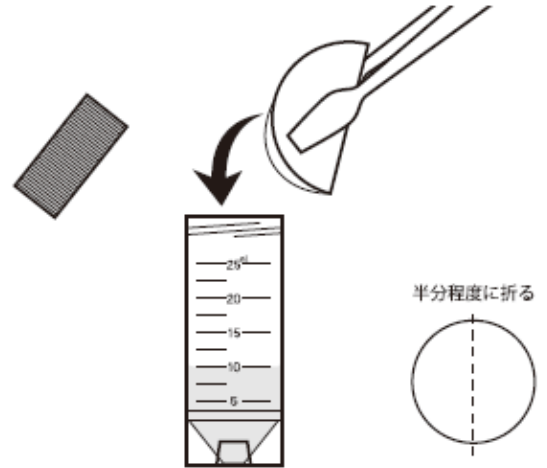
- ※水質によっては、ろ過時間が変わります。(10~60分)

- ◎ 外蓋を外すと残った検水が、勢いよく流れ出します。電源ボックスにかからないよう注意してください。また、衣服を濡らさないよう注意してください。



3.

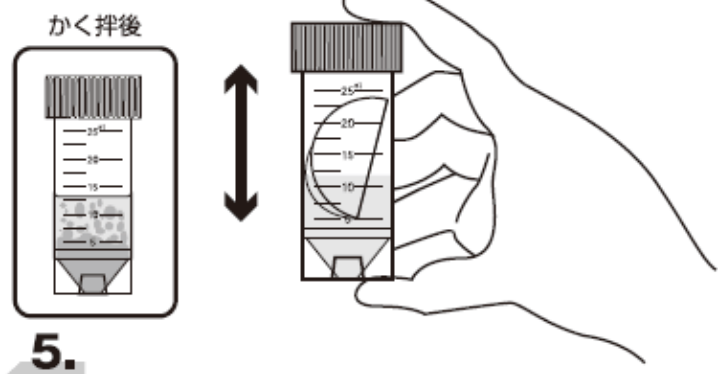
集菌ろ紙押えを外し、ピンセットで集菌ろ紙を半分程度に折り取り出します。



4.

溶出液(遠沈管)を用意し、半分程度に折った集菌ろ紙を入れます。

- ※溶出液がこぼれないように、注意してください。



5.

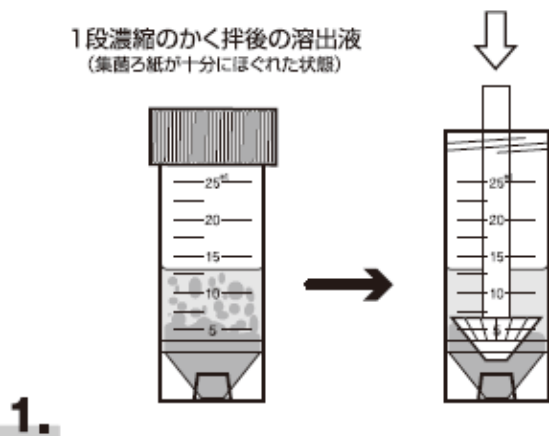
遠沈管のフタをしっかりとめ、上下に激しく振り、集菌ろ紙が十分にほぐれるまで、かく拌します。(1分程度)

- ※溶出液で抗原の分離を充分行うため、激しくかく拌してください。

1段濃縮完了!

3.2段濃縮

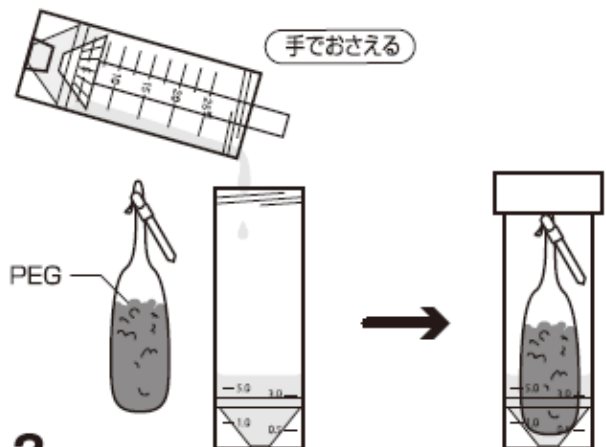
1段濃縮のかく拌後の溶出液
(集菌ろ紙が十分にほぐれた状態)



1.

1段濃縮で集菌ろ紙をかき拌した溶出液を、圧縮棒で底まで押し込み、集菌ろ紙と溶出液に分離します。圧縮棒は、限界まで押し込んでください。

※圧縮棒を押し込むとき、強く押し込むと溶出液が跳ねる場合があります。静かに押し込んでください。



2.

PEG容器からPEGを取り出します。「1.」の圧縮棒を手で固定したまま、分離した溶出液のみをPEG空容器に移し入れます。取り出したPEGを戻し、フタを閉め約2時間静置(濃縮)します。

3.

約2時間濃縮後、PEGを取り出し検査します。

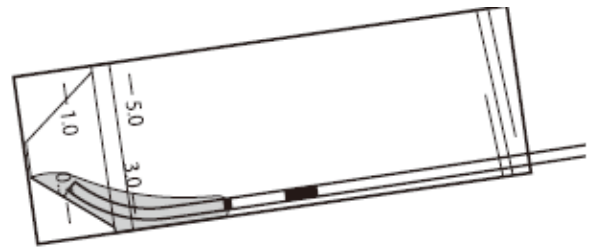
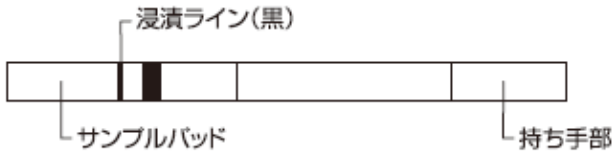
※PEGは、使用前は白色(結晶)ですが使用后(濃縮後)は透明な液体になります。

溶液は、
1時間50分後・・・約1mL
2時間後・・・・・・約0.5mL
残ります。

2段濃縮
完了!

4.測定結果の判定法

■テストストリップ



検査方法

テストストリップをアルミラミネート袋から取り出します。
 ※テストストリップは吸湿すると変性する恐れがありますので、開封後は直ちに使用してください。

「浸漬方法の注意」

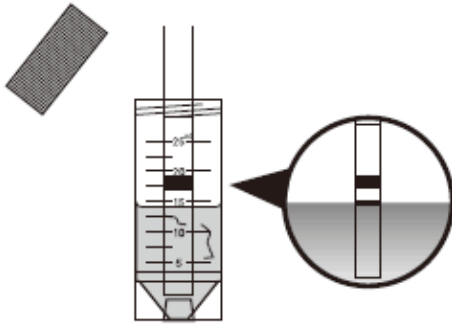
は、深すぎても、
 さんのので、必ず浸
 漬ライン(黒)の位置まで浸けてください。

- ◎ テストストリップを浸ける時間は、短すぎても、長すぎても正しく検査できませんので、必ず5～10秒浸けて取り出してください。

2.2段濃縮での検査方法

2段濃縮完了後、遠沈管のフタを開け、PEGを取り出した濃縮液にテストストリップを浸漬ラインまで入れ、5～10秒間浸します。

- ※この時、濃縮液0.5mL～1.0mLと微量の為、遠沈管を斜めに傾けてテストストリップを浸漬ラインまで浸してください。
- ※溶液が0.5mL以下になった場合、テストストリップの判定ができません。ろ過に使用した検水を1～2滴加えてください。



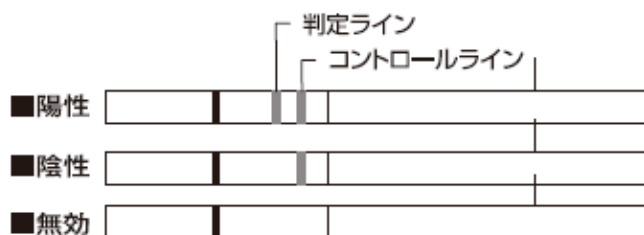
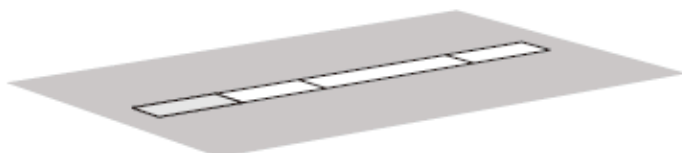
1.1段濃縮での検査方法

1段濃縮完了でかく拌後の遠沈管のフタを開け、テストストリップを浸漬ラインまで入れ、5～10秒間浸します。

5.判定(1段濃縮・2段濃縮 共通)

「判定上の注意」

判定は必ず**15分後**に行ってください。
コントロールラインや判定ラインの一部分が薄くなる場合がありますが、明らかにラインとして認められる場合には、ラインとして判断してください。



1.

取り出したテストストリップは、ラップやアルミホイルなどを敷いた、平らな場所に置き、**15分間**静置します。

2.

15分後にコントロールラインが着色していることを確認の上判定します。

「判定上の注意」

- テストストリップの所定の場所に、時間経過と共にコントロールラインと判定ライン(抗原陽性の場合)が出現しますが、最終判定は所定の15分後に行ってください。
各ラインは、濃淡にかかわらず明らかな赤紫色であることを確認してください。
- コントロールラインが出現しない場合は、判定を保留して、再度、新しいテストストリップで試験してください。
- 所定時間(15分間)よりも経過すると、判定ラインが薄く出現することがありますが、所定時間での判定を採用してください。
- 検水の濁りや成分によってコントロールラインや判定ラインが見つらい場合があります。
- 判定ラインの手前でラインが出た場合、検水(温泉水等)の有色成分と考えられるため、判定しないでください。

テストストリップの検査性能

- 1段濃縮終了時 1000 CFU/100mL以上
- 2段濃縮時

| | | | |
|---------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 濃縮液 5.0mL | 500 CFU/100mL以上 | 1.0mL | 100 CFU/100mL以上 |
| 3.0mL | 300 CFU/100mL以上 | 0.5mL | 50 CFU/100mL以上 |

※必要に応じ濃縮液5.0mL、3.0mLで判定する場合は、PEGを随時取り出し、水位を確認してください。
※本製品は、2段濃縮の判定を基本としております。1段濃縮での検査と2段濃縮後の検査を重ねますと、キット中のテストストリップが不足致します。その場合は、テストストリップの追加購入が必要となります。

測定結果の判定法

- 1. 陽性** . . . テストストリップの中間の所定の位置に赤紫色のコントロールラインが出現し、その手前に赤紫色の判定ラインが出現した場合を陽性とします。
- 2. 陰性** . . . コントロールラインだけが出現した場合を陰性とします。
- 3. 無効** . . . コントロールラインが出現しない場合は、判定は無効として、再試験してください。

測定器の総合商社

株式会社 佐藤商事

SATO SHOUJI INC.

〒211-0063 川崎市中原区小杉町 1-403 武蔵小杉タワープレイス 5階

☎(044) 738-0622 FAX : 044-738-0623

http://www.ureruzo.com/ SATO 測定器.COM : http://satosokuteiki.com/

